

富山市つばめ野居住者における 居住経歴が親子近居に 与える影響 －団塊ジュニア世代を事例に－

人文学部人文学科社会文化コース人文地理学4年
12210030 大橋奈々

1

目次

- I はじめに
 1. 問題の所在と研究目的
 2. 対象地域の概要
 3. 研究方法
- II 親世帯の居住地と往来頻度
 1. アンケート回答者の属性
 2. 親世帯の居住地
 3. 子世帯から親世帯への訪問頻度
 4. 親世帯から子世帯への訪問頻度
 5. ライフコースと親世帯の居住地への往来頻度
- III つばめ野への居住地決定要因
 1. 戸建住宅居住の契機
 2. 戸建住宅居住取得の際に重視した点
 3. 住宅取得後に重視するようになった点
- IV 居住地選択過程と近居の関係性
- V おわりに

2

はじめに

1. 問題の所在と研究目的

高度経済成長期

団塊の世代

非大都市圏→大都市圏へ移動→団地形成

谷 (1997)

大都市圏郊外住民の居住経歴を、個人の年齢に伴うイベント（就職、結婚等）が結びついて形成されたと指摘、ライフコース・アプローチから大都市圏郊外団地形成を分析→夫に付随する形で妻が居住地を移動

人口減少期の現在にそのまま適応できない

3

はじめに

1. 問題の所在と研究目的

①共働きの主流化

伊藤 (2001)

居住地選択の際に転居後も妻が働く場合は妻の勤務地が居住地選択に考慮されると指摘

②子どもの生育環境

久保 (2010)

2001年以降に入居した世帯では特に、子どもの教育・子育ての環境を重視する

③親との近居

由井ほか (2007)

子育てと就業の両立のため親との同居・近居
近居の選択は母系的な傾向

香川 (2011)

息子→盆や正月に往来
娘→日常的な子育て援助での往来
子→親 近親介護、親→子 子育て支援を期待

夫中心→妻や子どもを考慮した居住地移動へと変化

4

1

はじめに

1. 問題の所在と研究目的

昨年度のフィールド演習

大橋 (2025)
射水市あおば台居住者に居住地選択について調査
進学や就職を機に出身地から離れるケース以外、結婚まで出身地に留まる傾向あり、特に女性に顕著
子育てを重視、援助を見込み妻の実家近くを居住地として選択する傾向

親からの支援

主ほか (2024)
母親の役目を祖母が担う形で支援を受けており、生活の共同化が形成されていると指摘

近居のしやすさ

福田・久本 (2011)
現在の子育て世代は親と近居しやすい状況と指摘

中澤ほか (2012)
親が元々都市郊外に居住→都市部通勤◎→転居減少
結婚時に移動

5

はじめに

1. 問題の所在と研究目的

・前調査地以外でも妻の実家への距離を優先した近居形態がみられるのか
・親世代との近居選択者が、ライフコースにおいての地理的移動の経験と親世代の居住場所・親世代を訪ねる往来頻度との関連が不明

目的

・前調査地以外の地方都市郊外でも妻の実家への距離を優先した近居形態がみられるのか調査する
・子育て中である核家族世帯の団地入居者において、これまで転居してきた経歴が居住地選択の際に、親との近居や親世代との往来頻度と与える影響を、アンケート・インタビュー調査により分析し明らかにする

仮説

結婚まで親元を離れない人は近居をする、結婚までに親元を離れた人は近居しない傾向がある

6

はじめに

2. 対象地域の概要

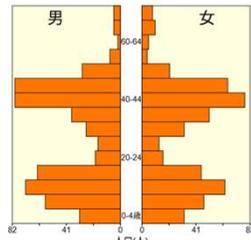
3. 研究方法

対象地域選定の条件

- ①子育て中の核家族密集→分譲戸建住宅
- ②若年層の持ち家多い→富山県
- ③人口多い→富山市
- ④小・中学生多い&祖父母同居少ない→つばめ野

研究方法

- ①WEBアンケート・インタビュー
居住者特性、居住経歴や親世代との往来頻度、居住地決定時に重視した点
回答47件、インタビュー6件
- ②1、2丁目納涼祭で街頭インタビュー
居住地決定時に重視した点
回答36件



富山市つばめ野の人口ピラミッド (統計年次は2020年、国勢調査より作成)



富山市つばめ野の周辺施設 (統計年次は2020年、国勢調査より作成)

7

親世代の居住地と往来頻度

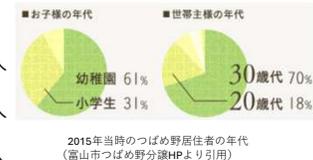
1. アンケート回答者の属性

<世帯構成>

- ・夫婦+子ども最多
- ・回答者の出生時は3世代同居多い

<居住地>

- ・1丁目…17人
- ・2丁目…16人
- ・3丁目…14人



2015年当時のつばめ野居住者の年代 (富山市つばめ野分譲HPより引用)

■お子様の年代: 幼稚園 61%, 小学生 31%

■世帯主様の年代: 30歳代 70%, 20歳代 18%

<職業>

- ・社員が約半数

<職場>

- ・富山市内に7割

年齢	男性 (人)		女性 (人)	
	現在の年齢	居住開始時の年齢	現在の年齢	居住開始時の年齢
~29歳	1	9	1	14
30~34歳	1	5	3	5
35~39歳	1	5	2	3
40~44歳	3	4	5	0
45~49歳	7	1	7	1
50~54歳	7	0	5	0
55~59歳	4	0	0	0
60歳~	0	0	0	0
合計	24	24	23	23

(アンケートより作成)

8

親世帯の居住地と往来頻度 2. 親世帯の居住地

<親世帯の居住地>

- 和合地区.....40人
- 旧富山市.....42人
- 富山市.....16人
- 富山県内.....32人
- 北陸・中部...11人
- その他.....42人

つばめ野から旧富山市内まで、
自家用車を使い約20分で
移動可能な距離

妻の母親を除く親世帯が多い
「その他」には他県も含まれていると
考えられる→
訪問頻度を見ていく際に「その他」を
除外する

9

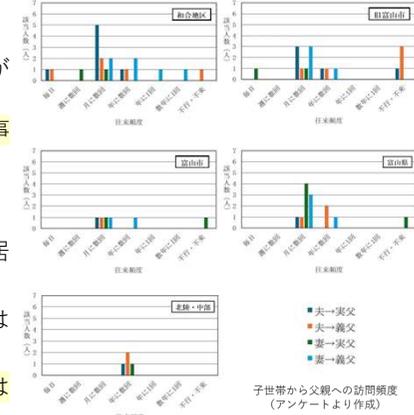
親世帯の居住地と往来頻度 3. 子世帯から親世帯への訪問頻度

<夫→父親>

- 自父の方が義父より距離が近く、往来頻度も高い
- 自父は日常的、義父は行事時に訪問

<妻→父親>

- 自父が旧富山市内までに居住→訪問多い
- 義父は自父より訪問頻度は低い
- 日常的な義父との関わりは少ないと考察



10

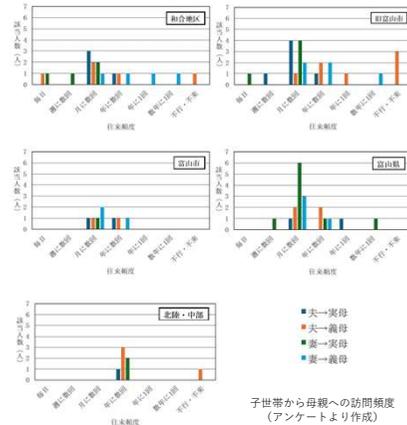
親世帯の居住地と往来頻度 3. 子世帯から親世帯への訪問頻度

<夫→母親>

- 義母への訪問少ない

<妻→母親>

- 義母より自母を訪問
- 自母が富山県内
→月に数回は訪問
- 自母の方が頼りやすい
- 自母が富山県外
→義母の訪問多い
- 自母を頼る距離には
限度があることが推測



11

親世帯の居住地と往来頻度 4. 親世帯から子世帯への訪問頻度

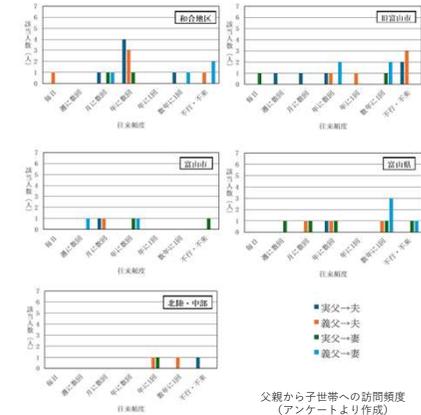
年に数回→行事時

<父親→夫>

- 夫→父親より低頻度
- 義父の訪問は少ない

<父親→妻>

- 父親→夫と同様



12

親世帯の居住地と往来頻度

4. 親世帯から子世帯への訪問頻度

<母親→夫>

- 自母が義母より近い
→頻度高い
- 自母が富山市外
→義母訪問頻度高い

<母親→妻>

- 自母が富山市内
→月に数回より多い
- 自母が市外・義母が市内
→義母の訪問多い
- 自母が富山市外～県内
→自母の訪問大幅減少

母親から子世帯への訪問頻度 (アンケートより作成)

13

親世帯の居住地と往来頻度

5. ライフコースと親世帯の居住地への往来頻度

- 5人が結婚前まで親と同居
- 往来自親 > 義親 約6割
- 自身 > 親を含めほぼ全数
- 和合地区出身が約6割
- 就職後～結婚までで和合地区外に転居が約7割
- 進学で県外→就職も県外で転勤視野に入れて就業
- 結婚は市内→就業地を考慮

①男性：
自身の両親のうちどちらかでも居住地が**つばめ野に近い**
14人

4区分該当者のライフコース (アンケートより作成)

14

親世帯の居住地と往来頻度

5. ライフコースと親世帯の居住地への往来頻度

- 出身地は分散
- 結婚時に和合地区流入... 約4割, 半数が持ち家取得
- 親元から離れているが結婚前まで出身地を出ない傾向
- 居住地 義親が近いのに 自親をよく訪問...約5割
→結婚前から親元を往来する習慣があったと考察

②男性：
義両親の居住地が**つばめ野に近い**
9人

4区分該当者のライフコース (アンケートより作成)

15

親世帯の居住地と往来頻度

5. ライフコースと親世帯の居住地への往来頻度

- 8人が高校卒業～結婚前まで親と同居
- 往来頻度 自親 > 義親 ...約6割
- 結婚前まで出身地に留まる傾向
- 県外進学でも就職を機に戻ってくる→県外転勤×
- 結婚転居は市内までが多い

③女性：
自分の両親のうちどちらかでも居住地が**つばめ野に近い**
13人

4区分該当者のライフコース (アンケートより作成)

16

親世帯の居住地と往来頻度

5. ライフコースと親世帯の居住地への往来頻度

- 2人が高校卒業～結婚前まで親と同居
- 進学以外、結婚前まで出身地に留まる傾向
- 富山県内までの地域出身 → 往来頻度 自親 > 義親 (特に母親に対し高頻度)
- 該当事者の約7割...結婚までに親と同じ居住地域内で親元を離れて居住 → すでに近居状態

④女性：
義両親の居住地の距離が
つばめ野に近い
9人

4区分該当事者のライフコース (アンケートより作成)

17

つばめ野への居住地決定要因

2. 戸建住宅取得の際に重視した点

<土地・家屋の取得費用>

- 居住開始が若い → 安く希望する環境に合った土地を探した

<周辺の子育て環境>

- 子育て世帯が多く入居
- 無意識のうちに考慮

<本人や配偶者の実家までの距離>

- 夫婦共働き → 協力を仰ぎたい

戸建住宅取得の際に重視した点 (アンケートより作成)

母親の援助
・孫にとっての母親役
・仕事の時間の余裕

18

つばめ野への居住地決定要因

3. 住宅取得後に重視するようになった点

- 「買回り品店までの距離」や「公共交通の便」が上位
- 40～50代の回答者はすぐの免許返納は考えづらい → 高齢化において課題
- 海に近い → 自然災害も重視

「バスの運賃が高く
車がないと生活が困難
陸の孤島だと思う」

住宅取得後に重視するようになった点 (アンケートより作成)

19

居住地選択過程と近居の関係性

①早期住宅取得

- 入居当時34歳以下が約7割 → 富山県の平均を上回る
- 共働きの収入 → 住宅取得に費用を抑える傾向

②親と同居 → 親の近くに居住

- 高校卒業～結婚まで転居なし
- 親と同居
- 自親の居住地優先で住宅を構える傾向
- 特に女性

③同地区別居 → 住宅取得後も往来

- 高校卒業～結婚まで転居あり + 同地域内に親が居住
- 往来関係構築
- 結婚し住宅構える
- 近居と往来し続けると考察

20

おわりに

- インタビューにて妻の実家の距離優先と同様に、**夫の実家の距離を優先したという声もあった**
→どちらも優先されている
- **ライフコースは近居や親世帯への往来頻度に影響を及ぼしている**
→今後もそれぞれを関連付けた研究が必要
- アンケート項目やインタビューの不備
→要改善

21

参考文献

- 伊藤修一 2001. 千葉ニュータウン戸建住宅居住世帯の居住地選択—夫と妻の意思決定過程への関わり方を中心として—, 地理学評論 74A:585-598.
- 王飛雪・小伊藤亜希子・平岡千穂・近藤雅之 2024. 近居親子世帯の子育てサポートを中心とした生活共同化, 日本建築学会計画系論文集 89:1952-1963.
- 大橋奈々 2025. 射水市あおば台に見る子育てを重視した居住地選択について, 富山大学人文学部人文地理学フィールド演習 (3) (4) (2024年度) 射水市調査報告:105-113.
- 香川貴志 2011. 少子高齢社会における親子近接別居への展望—千里ニュータウン南千里駅周辺を事例として—, 人文地理63:1-20.
- 金由羅・藤岡泰寛・加藤仁美・山口剛史・大原一興 2016. 郊外住宅団地における親族近居世帯の外出行動の特徴に関する研究—親族近居世帯間の相互支援に着目して—, 日本建築学会計画系論文集81:2163-2172.
- 久保倫子 2010. 幕張ベイタウンにおけるマンション購入世帯の現住地選択に関する意思決定過程, 人文地理62:1-19.
- 谷謙二 1997. 大都市圏郊外住民の居住経歴に関する分析—高蔵寺ニュータウン戸建住宅居住者の事例—, 地理学評論70A:263-286.
- 中澤高志・佐藤英人・川口太郎 2012. 東京圏における団塊ジュニア世代の居住地移動—X大学卒業生の事例—, 経済地理学年報 58:181-197.
- 福田順・久本憲夫 2011. 女性の就労に与える母親の近居・同居の影響, 社会政策学会誌『社会政策』4:111-122.
- 古田充宏 1990. 都市近郊「農村」の混住化に関する社会地理学的研究—旧広島市近郊の一集落を事例として—, 人文地理42:21-39.
- 松川尚子 2019. 『「近居」の社会学:関西都市圏における親と子の居住実態』ミネルヴァ書房.
- 由井義通・若林芳樹・中澤高志・神谷浩夫 2007. 働く女性の居住地選択と都市空間, E-journalGEO 2:139-152.

22

その他参考資料等

国土交通省住宅局 令和6年度住宅市場動向調査報告書.

https://www.mlit.go.jp/report/press/house02_hh_000228.html (最終閲覧日:2026年2月10日)

総務省統計局 令和5年住宅・土地統計調査結果, <https://www.stat.go.jp/data/jyutaku/index.html> (最終閲覧日:2026年2月10日)

富山市 富山市の概要と歴史, <https://www.city.toyama.lg.jp/shisei/profile/1008142.html> (最終閲覧日:2026年2月10日)

総務省統計局 2020年国勢調査 就業状態等及び従業地・通学地, <https://jstatmap.e-stat.go.jp/map.html> (最終閲覧日:2026年2月10日)

総務省統計局 2020年国勢調査, <https://www.e-stat.go.jp/gis/statmap-search?page=1&type=1&toukeiCode=00200521> (最終閲覧日:2026年2月10日)

富山市 土地区画整理事業等について, <https://www.city.toyama.lg.jp/shisei/machizukuri/1015125/1015129/1006131.html> (最終閲覧日:2026年2月10日)

富山市打出土地区画整理組合 子育てタウンつばめ野, <http://www.tsubameno.com/> (最終閲覧日:2026年2月10日)

RESAS地域経済分析システム 産業構造マップ産業構成割合, https://resas.go.jp/industry-all/?tab=0&level=city&pref=16&city=16201&year=2021&compYear=2016&data=census&categoryLevel=broad&barContent=sales_revenue&broad=AB&middle=01&small=011&detail=0111&order=labor&method=actual (最終閲覧日:2026年2月10日)

総務省統計局 2020年国勢調査, <https://www.e-stat.go.jp/gis/statmap-search?page=1&type=1&toukeiCode=00200521> (最終閲覧日:2026年2月10日)

23